

愛知学泉大学矢部教授の講演が新聞に掲載されました！

右：中日新聞 豊田版
2012年7月28日



学校周辺の自然環境について話す矢部教授—豊田市の松平高で

「経済にも利益」
愛知学泉大教授が
豊田・松平高で講演
豊田市の松平高校
で、カメの研究で知ら
れる愛知学泉大の矢部
さを訴えた。

生物多様性 私たちが守る！

隆教授（動物生態学）
の講演があり、生物の
多様性を維持する大切
さを訴えた。

講演は市内の東海丘
陵湧水湿地群がラムサ
ール条約に登録された
のを機に、身近な自然
環境について理解を深
めようと開催。ポラン
ティアで里山整備をし
ている二年生ら五十人
ほどが耳を傾けた。三
十一日にも別の講師の
講演がある。

矢部教授は矢作川や
同校近くを流れる巴川
で、ワニガメやアメリ
カナマスなどの外来種
が見つかり、在来種へ
の影響が懸念されると
指摘。人間は食料や医
薬品に多くの動植物を
利用しており、在来種
を守って絶滅を防ぐこ
とを呼びかけた。（諏訪慧）



講演がある。

矢部教授は矢作川や
同校近くを流れる巴川
で、ワニガメやアメリ
カナマスなどの外来種
が見つかり、在来種へ
の影響が懸念されると
指摘。人間は食料や医
薬品に多くの動植物を
利用しており、在来種
を守って絶滅を防ぐこ
とを呼びかけた。（諏訪慧）

松平町の松平高校（阿
知和聖二校長、生徒教5
92人）で7月23日、国
内屈指のカメの研究者で
愛知学泉大現代マネジメ
ント学部矢部隆教授の講
演が行われた。講演は2
年生の進学希望の生徒49

カメ博士が環境授業
松平の生物多様性を高校生に伝える



巴川の水生動物について語る
矢部氏 7月23日、松平高校で

左： 新三河タイムス
2012年8月2日

人が補習授業の一環とし
て受講した。「見直そう
松平の自然」としての活
動のひとつで、生徒らは
講演内容を9月の文化祭
にまとめ、12月に近隣の
九久平小学校に向き小
学生に伝える。

矢部氏は、巴川に生息
するカメやサカナなど水
生動物の外来種の問題に
ついてなど身近な川の状
態や、2010年の名古屋
屋でのCOP10の概要や
生物多様性について説明
し、「松平の生物多様性
を文化として定着させ、
自然を守って欲しい。欲
しい。また小学生にも生物

多様性について伝えてほ
しい」と訴えた。そして
「カメと共存する知恵、
生物と共存する知恵を身
に付けて欲しい」と語っ
た。

受講生の粕谷尚生さん
が「今後環境が変わると
生きられるカメ、生きら
れないカメも出てくるの
か」と質問すると「カメ

もあるだろうが、人間の
方がさらに難しいだろ
う」と皮肉まじりに答え
た。

また、青木梨帆さんは
「巴川の豊かな自然の中
のカメの話が印象深かつ
た。生物多様性について
もっと理解を増していき
たい」と感想を話した。
【岡田さち代】

（この記事・写真は中日新聞社およ
び新三河タイムスの許諾を得て転載
しています）